

「朝鮮近代史ノート」

- 全3回 -

制作：留学同大阪 文彰浩

朝鮮近現代史 「江華条約と甲申政変」

韓国併合までの朝鮮近代史を見るうえでのいくつかのポイント

- 1) 朝鮮の「自主」と「独立」をめぐる清・日間の論争と対立の激化の過程
- 2) 朝鮮の独立を大前提とした近代化改革を志向した政治勢力の誕生と、彼らの政治的実践
- 3) 広範な民衆の政治的力の成長と、その蓄積が様々な形で顕在化
- 4) 上記2)、3)のような朝鮮国内での自律的な改革への要求とその実践に対する諸外国（とくに日本）の不当な介入 とくに日本の学校教育では朝鮮近代史を「他律的な歴史」であるかのように歪曲

：開国前夜の朝鮮 - 大院君の改革 -

- 1) 勢道政治と支配体制のゆらぎ
安東金氏アンドンキムシの権勢（「勢道政治」）とその弊害
民衆の力の成長 支配体制の矛盾と動揺（民乱の時代）
キリスト教の浸透と欧米帝国主義の影
- 2) 大院君テウォングン政権の登場とその性格
1873年、高宗コジョン（李熙リヒ）の即位 王の実父として摂政に
勢道政治を排して、強力な王権の回復を目指す（安東金氏の排除、「書院」の大幅整理、景福宮修復工事・・・）
欧米帝国主義列強の朝鮮侵略を極度に警戒 キリスト教大弾圧 報復攻撃を受ける
- 1866年 キリスト教大弾圧（仏人宣教師処刑）
同年、仏軍、江華島侵攻
- 1866年 米武装商船シャーマン号、大同江上で平壤軍民らに撃沈される

1871 年、米軍、江華島侵攻

・・・いずれも撃退 なぜ朝鮮の大院君政権がここまで強硬な対外政策に？

衛正斥邪思想の台頭（「正しき」= 朱子学の正統と、それを奉ずる朝鮮王朝 を守り、「邪悪」な欧米のキリスト教や物質文明を排斥する）

1873 年「反大院君派」らの運動により失脚 王妃・閔妃を中心とする閔氏政権の登場

カンファド ：江華島条約

1) 江華島事件

「書契問題」と、外務卿・副島種臣による清国・総理衙門への朝鮮国の「自主」と「独立」についての質問

江華島事件

- 1875 年、日本軍艦「雲揚号」、江華水道を無断で測量 朝鮮側砲台、警告射撃 日本艦隊が反撃、永宗島で乱暴

2) 江華島条約

1876 年 黒田清隆を全権とする日本使節団、艦隊を引率し不平等条約の締結を朝鮮側に迫る

条約締結（江華島条約）

- 釜山・元山・仁川の 3 港を開港
- 日本商品にたいする関税課税権を否認
- 3 港での日本貨幣の流通承認
- 日本人犯罪者にたいする「治外法権」の承認
- ・・・国際法にもとづく近代的外交や貿易の概念が欠如した閔氏政権の過失

：壬午軍乱とその余波

1) 壬午軍乱

1882 年、ソウルで朝鮮軍兵卒ら一斉蜂起

閔氏政権の親日政策、「別技軍導入」が原因 反閔・反日の暴動へ
(ソウル市民も合流し、宮廷および日本公使館を襲撃)

大院君政権の一時的復活

清軍の軍事介入により閔氏政権復活 大院君、天津へ拉致

2) 軍乱の余波

清、朝鮮にたいする伝統的関係を検討し、実質的支配力の行使開始

- 清軍 3000 名がソウルに常駐
- 「朝清商民水陸貿易章程」で従来の朝貢貿易を近代的な貿易関係に改変
「チエムルポ濟物浦条約」
- 「公使館護衛」の名目で 150 名の日本兵の常駐
- 軍乱による日本人犠牲者にたいする謝罪と遺族への賠償要求
衛正斥邪思想の一時後退

：開化派の登場と甲申政変

1) 開化派の源流と形成

18 世紀に一部指導層でうまれた実学派の系譜を継ぐ 現実的・合理的世界観

パクチウオン
朴趾源 『熱河日記』

少壮リヤンバン兩班・中人チュンイン(医官、訳官、天文官など)らに受け入れられる

- キムオクキョン金玉均・パクモンヒョ朴泳孝・キムコンシク金允植・オコンジョン魚允中ら兩班官僚
- オギョソンク吳慶錫・リュホンギ劉鴻基・リドンウオン李東元ら中人、僧侶

2) 開化派の思想的分裂

- ・・・壬午軍乱時の開化派内部での 2 通りの反応

急進的開化派（金玉均・朴泳孝ら）

- 清の朝鮮にたいする宗主権乱用に憤慨
- 対清追従関係の破棄を前提とした近代化改革を志向「反清・反閔」

漸進的開化派（金允植・魚允中ら）

- 軍乱発生時、訪清中 清に軍乱鎮圧軍の派遣を依頼
- 対清追従関係や、閔氏政権を追認し、それらと調和しながらの内政改革を志向

3) 甲申政変の実行

実行の背景

- 政治的に追いつめられた金玉均を中心とする急進的開化派が「朝鮮近代化阻害の諸悪の根元」とみなす閔氏政権の打倒を計画
- 清仏戦争勃発により駐朝清軍の半数が出動（のこり 1500 名）
- 駐朝鮮日本公使・竹添の“空手形”（清軍の軍事介入の妨害と、新政権への援助約束）

政変の実行

- 1884 年 12 月 ソウルで初の郵便局落成記念宴に集まった閔氏一派をねらう
- 閔氏一派の排除に成功 金玉均ら、新政権の樹立へ
- 清軍の軍事介入と日本公使の背信行為 失敗

政変の余波

清 - 朝鮮における清の宗主権の「実質化」すすむ

日本 - 朝鮮における日本の影響力大幅後退

- 政界、言論界、マスコミが主導して反清・反朝鮮キャンペーンを展開、朝鮮、中国にたいする蔑視観が民衆レベルに浸透する 福沢諭吉の「脱亜論」
- 対清戦争をにらんだ外征軍隊の編成（鎮台制から師団制へ） 「日清戦争」へ

朝鮮近現代史 「日清戦争と朝鮮」

：天津条約

1) 天津条約

清・李鴻章と日本・伊藤博文との間で調印

日清両軍の朝鮮からの撤兵

日清両国が朝鮮に軍事顧問等をおくことを禁ずる

朝鮮で内乱・政変などの「変乱」が起きた際には、日清両国が互いに出兵を事前に通知し、「変乱」が鎮圧されれば速やかに両軍は朝鮮から兵を退く

以後、10年間にわたって朝鮮に外国軍が駐留せず

2) 日清両国の「暗闘」

日本 専ら、自国商人の影響力を朝鮮経済に浸透させることをめざす

防穀令事件(1889)による「損害賠償」要求

清 「朝清商民水陸貿易協定」を根拠に政治的にだけでなく経済的にも朝鮮への実質的支配力を強化

朝鮮における袁世凱の「監国化」

：甲午農民戦争

1) 東学

1860年ころ、慶尚道で没落両班、崔濟愚チエジユが創始

西学（キリスト教など欧米の宗教や思想）に対抗

「人乃天」(人、乃ち天)・・・絶対的価値の基準(=天)は人それぞれの心の中にあると説く 不条理な支配体制を改革しようとする

朝鮮南部の農民層に広まる

2) 甲午農民戦争勃発

全羅道の地方官吏の圧政に反対

東学接主(地方幹部)の全棒準チョンボンジュンが指導し、一大蜂起 政府軍と交戦

全羅道の首府、全州チョンジュを占拠 閔氏政権、清に援軍依頼 日本も朝鮮へ派兵
農民軍、「弊政改革案」を政府に提起

3) 全州和約

政府、農民軍双方が、天津条約を根拠とした日清両軍の朝鮮上陸を警戒し、和睦に合意

政府が農民軍の「弊政改革案」を承認 甲午改革に影響あたえる

: 日清戦争

1) 日本の強引な開戦工作

天津条約を根拠に派兵

- 全州和約により派兵の根拠が消滅
- ・ 清：日清共同撤兵を提案
- ・ 日本：この機を逃さず対清戦争を画策（外務大臣・陸奥宗光と陸軍参謀本部・川上操六の陰謀）

日本、日清共同による「朝鮮政府内政改革案」提起

朝鮮：「内政改革はあくまでも朝鮮人の意志で！」 - 拒絶

清：「朝鮮の「自主」権に関わる問題なので、過度の内政干渉になる！」 - 不同意

日本軍による「朝鮮王宮占拠事件」

高宗の身柄を確保し、閔氏政権を転覆 親日政権の樹立に着手

忠清道チュンチョンド・牙山アサンの清軍を奇襲攻撃

2) 戦争の経過

朝鮮王宮占拠 牙山の清軍奇襲 平壤の戦いで勝利 清国領土に侵攻（日本軍による旅順市民虐殺事件） 「黄海海戦」勝利 北洋艦隊基地・威海衛占拠 講和へ

4) 甲午農民軍の再蜂起

日本軍、朝鮮政府軍と交戦、敗北 全棒準逮捕、処刑

5) 日清講和条約(下関条約)

清国は朝鮮の「独立」を承認する

賠償金の支払い 日本の産業革命発展のテコ

台湾、澎湖諸島、遼東半島の割譲 日本、植民地保有帝国へ

(「三国干渉」で遼東半島は返還)

: 甲午改革

1) ^{キムホンジュ}金弘集内閣の成立

- 漸進的開化派人士を中心に組織

2) 甲午改革

清国の宗主権からの離脱

科挙制を廃止し、人材の公平な採用 近代的学校制度設立

奴婢身分の撤廃

立法権と司法権の分離

・・・など、近代的な国家を志向した改革

3) 改革の歴史的意義と挫折

朝鮮近代化運動の総決算的改革

- 開化派の思想を実現・・・「上からの」最後の改革

- 甲午農民軍の「弊政改革案」の要求も反映

民衆の支持・理解受けられず

- 甲午農民軍の再蜂起を日本軍と共同して弾圧・・・民衆と敵対

- 民衆に対する啓蒙活動欠落・・・民衆の不理解と反発・「親日派」の烙印

例:「断髪令」の混乱

内閣崩壊により失敗

：独立協会運動と活貧党

1) 閔妃暗殺事件 (1896 年)

閔妃、日清戦争後、ロシアに傾く

駐朝鮮日本公使・三浦吾楼指揮下に日本人「大陸浪人」が実行

日本政府、彼らの罪を不問に付す

朝鮮南部を中心に在地の儒学者らが各地で反日義兵闘争展開 (第一次義兵闘争)

高宗、ロシア公使館に避難・・・「露館播遷」(翌年 97 年まで)

2) 独立協会運動 (1896 ~ 1898)

帰国した亡命独立運動家らが設立・・・積極的な近代化、独立運動展開

- 「迎恩門」を「独立門」に、「慕華館」を「独立館」に

『独立新聞』発行 (初の国文《ハングル》版新聞) 英版『The Independent』

「万民共同会」開催 (いわゆる“大衆政治討論会”)

広範な民衆に朝鮮近代化の必要性と自主・独立精神を扶植し、近代的な立憲君主国を志向

・・・政府および御用政治団体の弾圧 1898 年、解散

3) 活貧党の活動

甲午農民戦争参加者、義兵参加者らが朝鮮南部で反封建武装闘争継続

・・・「活貧党」と称す 小説『洪吉童伝』^{ホンギルドンジョン}に由来

悪徳官吏を襲撃し、富を貧民に分配

4) 大韓帝国

1897 年、朝鮮国の独立を確固とすべく「建元称帝」し、(王を皇帝とし、独自の年号「光武」を建てる) 国号を大韓と変更

「大韓帝国国制」宣布 (1899 年)

- 皇帝権の絶対性を強調することのみに終始し、朝鮮近代化運動の成果の多くを継承・発展させることができなかった

朝鮮近現代史 「韓国併合への道」

：日露戦争（1904～1905）

1) 韓国政府とロシアの蜜月関係

李完用^{リウォンユン}ら親露的官僚グループの出現（^{チョンドンガ}貞洞派） ロシアを背景に日本を排除狙う
「露館播遷」の張本人

2) 朝鮮半島をめぐる国際対立の激化

義和団事件後、ロシア軍、満州に不法駐留 日本と朝鮮、満州を巡り対立
ロシア、フランス資本を背景にシベリア鉄道の拡張および東清鉄道・東清鉄道南満
州支線の経営に着手
日本、ロシアの南下をおそれるイギリス、アメリカと結ぶ
「日英同盟」、「桂・タフト協定」で英米から朝鮮支配権の承認うける

3) 日露戦争

英・米、日本の戦費の約半分を援助（17億円中8億円）
戦場は主に中国東北部・・・「旅順要塞攻略戦」、「奉天の会戦」、「日本海海戦」
翌年、米の仲介で講和成立 ロシア、北緯50度以南のサハリンを日本に割譲
ロシア、日本の韓国における独占権承認
賠償金取れず 「日比谷焼きうち事件」

：^{ウルサ}乙巳条約

1) 日露戦争下の韓国と日本

1904年、韓国政府、日露開戦に際し中立を宣言
日本、「日韓議定書」を強要し、韓国の中立を侵犯 後方軍事支援強要

「第一次日韓協定」・・・韓国政府に日本人の外交顧問、財政顧問おくことを決定
「顧問政治」の開始

2) 乙巳条約(第二次日韓協定)強制締結(1905年)

韓国を日本の保護国にし、ソウルに韓国統監府を設置(初代統監・伊藤博文)
韓国の外交権を剥奪し、日本外務省に移管する
事実上の「植民地化」

3) 乙巳条約の問題点

皇帝および韓国閣僚にたいする脅迫
国家元首(高宗皇帝)の批准がない

- ・・・条約 = 「国家間の合意で法的拘束力をもつもの」 by 『広辞苑』
- 果たして、この条約に法的根拠にもとづく有効性があるのか？

現在に至るまで韓・日/朝・日間の歴史認識をめぐる重要論題となる

：抗日義兵闘争の高揚と愛国啓蒙運動

1) ハーグ密使事件(1907年)と高宗の強制退位

高宗、乙巳条約の不法性を訴えるべく3人の密使をハーグ万国平和会議に派遣
日本側の周到な手回しで失敗

高宗、日本の脅迫により強制退位 ^{スンジョン} 純宗(最後の王)即位

2) 丁未条約(1907年)

韓国正規軍(6000名)の強制解散 反日義兵闘争に合流、闘争の激化(第二次義兵闘争)

韓国政府の各省に日本人次官をおく「次官政治」

3) 愛国啓蒙運動の展開

教育と民族産業を振興し、独立のために必要とされる民族の実力養成めざす

「大韓自強会」^{テハンチャガンホエ} 結成（1907年）・・・独立協会の系譜を継ぎ、民衆への独立思想の扶植と議会政治の設立に力点

日本による保護政治下で合法的な活動の域を出ることが出来なかった。

秘密組織「新民会」が平壤を中心とする朝鮮北部に発展（安昌浩^{アンチャンホ}ら参加）

愛国的言論運動・・・『皇城新聞』^{ファンソンシンムン}、『大韓毎日申報』^{テハンメイルシンボ}が反日愛国的論陣を張る

- 『皇城新聞』社長・張志淵^{チャンジユン}、紙上で乙巳条約での日本の横暴を暴露 停刊処分
- 英人記者、ベッセルが『大韓毎日申報』^{テハンメイルシンボ}社長として併合まで活動
- 史学者・申采浩^{シンチェホ}、言語学者・周時経^{チュシギョン}の活躍 祖国の歴史と言葉への関心高める 韓国政府、「光武新聞紙法」等による民間出版物への事前検閲で弾圧

：韓国併合

1) 親日政治団体「一進会」の暗躍

2) 「韓国併合条約」

韓国統監・寺内正毅と韓国総理・李完用が調印

合法性に問題・・・外交権を奪われ、外交主体となりえない韓国が外国（日本）と条約締結可能？

乙巳条約の論理的矛盾を日本自らが露呈

関連年表（1860年～1910年）

- 朝鮮史 -

- 1860 慶尚道慶州で没落両班の崔済愚が東学を創始
- 1862 慶尚道晋州で大規模な農民反乱
- 1863 崔済愚逮捕・処刑
哲宗死去、高宗の即位（摂政に大院君）
- 1866 大院君、キリスト教に大弾圧を加える
米武装商船シャーマン号、平壤で官民の攻撃を受け大同江上で撃沈される
フランス軍、江華島に侵攻
- 1868 米人オッペルト一行、南延君（大院君の実父）陵墓盗掘に失敗
- 1871 アメリカ軍、江華島に侵攻
- 1873 大院君失脚（閔氏政権のはじまり）
- 1875 江華島沖で日本軍艦「雲陽号」朝鮮側砲台と交戦し、永宗島を一時占拠（江華島事件）
- 1876 江華条約締結（朝・日）
第一回朝鮮政府訪日団を送る
- 1879 開化僧・李東元、秘密渡日
- 1882 清・李鴻章の仲介で米と国交樹立
ソウルを中心に「壬午軍乱」おこる
濟物浦条約締結（朝・日）
朝清商民水陸貿易章程締結（朝・清）
開化派の朴泳孝ら、朝鮮国旗として「太極旗」（現在の大韓民国国旗）を考案
- 1883 英・独と国交樹立
- 1884 甲申政変（金玉均ら指導層の一部、日本へ亡命）
- 1885 天津条約（日・清）
英軍、巨文島を一時占領（87年 撤退）
- 1889 「防穀令事件」（93年に 朝鮮側の「支払い」完済）
- 1894 全羅道で大規模農民反乱（甲午農民戦争）
日清戦争勃発
金弘集内閣成立し、甲午改革に着手

- 1895 農民軍、第二次蜂起決行・・・全棒準、逮捕・処刑
王妃・閔妃、日本人壮士らによって暗殺さる
反日義兵闘争の高揚
- 1896 高宗、ロシア公使館に移動（露館播遷 翌年還宮）
金弘集内閣、崩壊
独立協会設立（～98 政府の弾圧により強制解散）
- 1897 大韓帝国宣布
- 1901 済州島で大規模な反政府・反キリスト教蜂起（李在守の乱）
- 1904 「日韓議定書」締結
「第一次日韓協約」締結・・・「顧問政治」のはじまり
京義線（ソウル～新義州）・京釜線（ソウル～釜山）開通
- 1905 「第二次日韓協約」（乙巳条約）締結・・・韓国の保護国化・統監府の設置
反日義兵闘争の第二次高揚
「皇城新聞」社長の張志淵、乙巳条約を紙上で痛烈批判（翌年停刊処分）
- 1907 李完用内閣、反日的言論弾圧のため「光武新聞紙法」発布
英人ベッセル（朝鮮名：裒 説）を社長とする「大韓毎日申報」発刊
「ハーグ密使事件」・・・高宗、強制退位
「第三次日韓協約」（丁未条約）締結・・・「次官政治」のはじまり・韓国軍強制解散（解散軍隊のうち朴成煥大隊がソウル城内で日本軍と熾烈な銃撃戦展開）
大韓自強会設立（翌年、大韓協会に改称）
義兵将、崔益鉉、日本軍により逮捕され対馬監獄で獄死
- 1908 「東洋拓殖株式会社」（東拓）設立
韓国政府外交顧問スティーブンス、オークランド駅頭で朝鮮人・田明雲、張仁煥に暗殺される
- 1909 日本「韓国駐劄軍」、南部朝鮮で義兵に対する「南韓討伐作戦」開始
安重根、ハルビン駅頭で伊藤博文を射殺
- 1910 「韓国併合条約」

関連年表 (1860 年 ~ 1910 年)

- 世界史編 -

- 1860 (清)「アロー戦争」に敗北し、北京条約締結
(露)北京条約により、清から「沿海州」を獲得(ロシア、朝鮮と国境を接するようになる)
(日)「桜田門外の変」で井伊直弼暗殺
- 1861 (清)初の近代的な外交機関として総理事務衙門設立(主席:恭親王)
(米)南北戦争始まる(~65)
(伊)イタリア王国成立
- 1863 (日)「生麦事件」を原因として薩英戦争おこる
(米)リンカーン大統領、「奴隷解放宣言」
- 1864 (日)京都御所・蛤御門で薩長両軍熾烈な交戦「蛤御門の変」
- 1866 (日)坂本龍馬の仲介で薩長同盟成る
(独・墺)普墺戦争(七週間戦争)でプロイセン勝利
- 1867 (日)将軍・徳川慶喜が大政奉還す
- 1868 (日)明治改元 東京遷都
鳥羽・伏見の戦いを皮切りに戊辰戦争(京都 東京 会津 函館)はじまる(~69)
- 1870 (独・仏)普仏戦争起こり、フランス皇帝・ナポレオン 3世捕わる
(伊)イタリア王国、統一を完成す
- 1871 (日)廃藩置県
(独)ドイツ帝国成立
(仏)「パリ=コミュン」成立 「血の一週間」により鎮圧、第三共和制へ
- 1873 (日)「征韓論争」おこる(翌年、西郷隆盛ら下野「明治六年の政変」)
- 1874 (日)琉球島民殺害事件を口実に台湾出兵
- 1875 (清)同治帝死去、光緒帝即位で西太后が実権を握る
- 1877 (日)西南戦争おこり西郷隆盛戦死
(英印)元首をヴィクトリア 1世とする英領インド帝国が成立
- 1879 (日)琉球藩を廃し、沖縄県とする「琉球処分」
- 1881 (日)板垣退助を総理として「自由党」設立
- 1882 (独・墺・伊)三国同盟結成
- 1884 (日)秩父困民党らによる「秩父事件」

- (清) ベトナム王国の支配権をめくり清仏戦争勃発
- 1889 (日) 「大日本帝国憲法」発布
- 1891 (露・仏) 露仏同盟成立
- 1894 (仏) ドレフュス事件
- 1895 (清) 孫文、ハワイで反清革命団体「興中会」組織
 (伊) エチオピア帝国に侵攻、エチオピア軍民に敗北
- 1898 (英・仏) アフリカのスーダンで英仏両軍が遭遇(ファショダ事件)
 (米) アメリカ-スペイン戦争勃発 米、スペイン領フィリピン領有、ハワイ王国を併合
 (清) 戊戌変法失敗 光緒帝幽閉
 (露・独・英) 清国内の海港地帯を 99 年間の永久租借 * 英は九龍半島北部を租借し、「香港植民地」完成
- 1899 (英) 南アフリカ戦争(ボーア戦争 ~ 1902) 勃発
 (米) 国務長官ジョン=ヘイ、中国に利権を持つ諸国に対し「機会均等・領土保全」を要請
- 1900 (清) 義和団の蜂起に乗じ、清朝、列強 8 カ国(英、仏、露、日、伊、独、奥、米)に宣戦布告
- 1901 (清) 義和団の蜂起失敗し、列強 8 カ国と「北京議定書」締結
 (英) ヴィクトリア 1 世死去
- 1902 (日・英) 日英同盟成立
- 1904 (日・露) 朝鮮・仁川沖の露艦隊を日本艦隊が攻撃し、日露戦争はじまる
- 1905 (露) ロシア第一革命・・・「血の日曜日事件」、「戦艦ポチョムキンの反乱」
 (独) ドイツ皇帝・ウィルヘルム 2 世、突如、仏領モロッコのタンジールを訪問(タンジール事件)
 (清) 孫文、日本・東京で諸反清団体を糾合し「中国同盟会」設立
 (清) 科挙制度を廃止
 (英印) 「ベンガル分割令」
 (日・米) 「桂=タフト協約」(日・英) 「第二次日英同盟」
- 1908 (清) 「憲法大綱」制定 「満州親貴内閣」発足
 (清) 光緒帝・西太后死去 12 代皇帝として宣統帝(愛新覺羅・溥儀)が 3 歳で即位

凡例：(清)は清帝国(1636~1912) / (日)は日本 / (独)ドイツ帝国(1871~1918)ただし、(普)はプロイセン王国を指す / (奥)はオーストリア=ハンガリー帝国(1867~1918) / (伊)はイタリア王国(1861~1943) / (露)はロシア帝国(ロマノフ朝・1613~1917) / (米)はアメリカ合衆国(1776~) / (仏)は共和制フランス(1789~《1804~1815 及び、1852~1870 は帝政》)